

2023年度事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

新材料及びこれに関連する科学技術分野における**公益事業1**（研究助成、国際交流助成、国際シンポジウム助成の各事業）並びに**公益事業2**（科学技術啓蒙助成事業）について、計画通り実施した。

公益事業1

1. 研究助成

1-1.研究助成

(1) 2023年度（第35回）研究助成の実施

2023年3月の第79回（公益認定後第32回）理事会で承認・決定した15名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は1件2,000千円で、総額30,000千円。応募総数は36件であった。

(2) 2024年度（第36回）研究助成の公募

公募期間は2023年8月1日から9月22日、応募総数は59件であった。選考委員による書類審査を経て、2023年11月30日の選考委員会において候補者13名を選出した。2024年3月の第82回（公益認定後第35回）理事会で承認・決定した。

1-2.スタートアップ助成

(1) 2023年度（第3回）スタートアップ助成の実施

2023年3月の第79回（公益認定後第32回）理事会で承認・決定した14名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は1件1,000千円で、総額14,000千円。応募総数は29件であった。

(2) 2024年度（第4回）スタートアップ助成の公募

公募期間は2023年8月1日から9月22日、応募総数は37件であった。選考委員による書類審査を経て、2023年11月30日の選考委員会において候補者12名を選出した。2024年3月の第82回（公益認定後第35回）理事会で承認・決定した。

1-3.発展研究助成

(1) 2023 年度（第 4 回）発展研究助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した 3 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 5,000 千円で、総額 15,000 千円。

(2) 2024 年度（第 5 回）発展研究助成の選考

2023 年 11 月 30 日の選考委員会において、2022 年度研究助成の終了者（12 名）を対象として、候補者 2 名を選考した。2024 年 3 月の第 82 回（公益認定後第 35 回）理事会で承認・決定した。

2. 国際交流助成

(1) 2023 年度（第 36 回）国際交流助成の実施

選考委員による審査選考にて選出し、2023 年 5 月の第 80 回（公益認定後第 33 回）理事会で、11 名への助成金の贈呈が承認・決定した。助成額は最高 250 千円で、総額 2,550 千円。うち 1 件は参加取り止めのため 250 千円の返金となり、10 件に総額 2,300 千円を贈呈した。

(2) 2024 年度（第 37 回）国際交流助成の公募

公募期間は 2024 年 2 月 1 日から 3 月 22 日、応募件数は 9 件であった。

3. 国際シンポジウム助成

(1) 2023 年度（第 34 回）国際シンポジウム助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した 7 件に助成金を贈呈した。助成額は最高 300 千円、総額 2,100 千円。

(2) 2020 年度（第 31 回）国際シンポジウム助成の実施

2020 年度助成対象案件のうち、2023 年度に延期開催となった 1 件に助成金 300 千円を贈呈した。

(3) 2021 年度（第 32 回）国際シンポジウム助成の実施

2021 年度助成対象案件のうち、2023 年度に延期開催となった 2 件に助成金を贈呈した。総額 600 千円。

(4) 2022 年度（第 33 回）国際シンポジウム助成の実施

2022 年度助成対象案件のうち、2023 年度に延期開催となった 2 件に助成金を贈呈

した。総額 600 千円。

(5) 2024 年度（第 35 回）国際シンポジウム助成の公募

公募期間は 2023 年 8 月 1 日から 9 月 22 日、応募総数は 5 件であった。選考委員による書類審査を経て、2023 年 11 月 30 日の選考委員会において 5 件を候補として選出した。2024 年 3 月の第 82 回（公益認定後第 35 回）理事会で承認・決定した。

4. 研究成果報告会

2022 年度研究助成金受領者、2022 年度スタートアップ助成金受領者および 2021 年度発展研究助成金受領者による第 26 回研究成果報告会を 2023 年 11 月 30～12 月 1 日、（株）トクヤマ・徳山製造所にて開催した。

公益事業 2

1. おもしろワクワク化学の世界展への助成（2023 年度（第 31 回））

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した日本化学会中国四国支部主催の「おもしろワクワク化学の世界'23 徳島化学展」（2023 年 8 月 26～27 日/徳島市）に助成金を贈呈した。助成額は 2,000 千円。

2. 少年少女発明クラブへの助成（2023 年度（第 17 回））

山口県内 7 つの少年少女発明クラブに助成金を贈呈した。助成額は 1 クラブ 50 千円、総額 350 千円。

2023 年度（第 35 回）研究助成

(15 件、総額 30,000 千円)

(五十音順)

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 (千円)
1	今村和也	37	助教	高知大学 教育研究部総合科 教育系 複合領域科学部門	無害な有機色素を使った光触媒の開発とバイオマス変換への応用	2,000
2	大石雄基	34	助教	富山大学 学術研究部 薬学・和漢系	常温でリン光を発するロタキサン型色素の創製	2,000
3	大洞光司	38	准教授	大阪大学 大学院工学研究科 応用化学専攻	不活性なC-H結合の変換を促進する人工金属酵素の合理的設計	2,000
4	加藤匠	30	助教	奈良先端科学技術大学院大 学 先端科学技術研究科 物質創成科学領域	高速応答が可能な有機無機ハイブリット型シンチレータの開発	2,000
5	河野慎一郎	44	講師	名古屋大学 大学院理学研究科 理学専攻	液晶性大環状化合物の内部空間を利用した多孔性液晶の機能開拓に関する研究	2,000
6	河村暁文	42	准教授	関西大学 化学生命工学部 化物質工学科	優れたはつ油性を示す双性イオン型ポリエスルの創製	2,000
7	桑原泰隆	39	准教授	大阪大学 大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻	金属酸化物の酸素欠陥エンジニアリングに基づく高活性CO ₂ 水素化触媒の開発	2,000
8	田邊洋一	42	准教授	岡山理科大学 理学部 基礎理学科	高性能3DグラフェンPN接合トランジスタの創出	2,000
9	津留崎陽大	40	准教授	大阪公立大学 大学院理学研究科 化学専攻	ホスマニベンゾヘプタレン誘導体の合成と応用	2,000
10	徳本有紀	41	講師	東京大学 生産技術研究所 物質・環境系部門	二次元層状準結晶の合成と超伝導特性評価	2,000
11	福原学	43	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	スマネン超分子ポリマーによる增幅計測	2,000
12	藤田貴啓	34	助教	東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻	非平衡ペロブスカイト型ルテニウム(III)酸化物薄膜における磁性強相関トポロジカル物性開拓	2,000
13	松岡真一	44	准教授	名古屋工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 生命・応用化学系プログラム	配位重合と高分子反応による高活性・高選択性官能基化ポリオレフィンの合成	2,000
14	森啓二	42	准教授	東京農工大学 大学院工学研究院 応用化学部門	スタックトドアーレーン構造の特異な電子効果の利用を鍵とする有機触媒の創生	2,000
15	山科雅裕	34	助教	東京工業大学 理学院 化学系	自己相補性によるn共役系分子の環状集積と特異光機能の創出	2,000

2023年度（第3回）スタートアップ助成

(14件、総額14,000千円)

(五十音順)

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 (千円)
1	伊藤正人	28	助教	東京都立大学 都市環境学部 環境応用化学科	励起構造制御に基づく新規シングレット フィッシュン分子の開発と高効率化	1,000
2	小野寺桃子	29	特任助教	東京大学 生産技術研究所 基礎系部門	遷移金属ダイカルコゲナイトのサブバンド間 遷移を利用したテラヘルツ発光素子の実現	1,000
3	加藤研一	30	助教	京都大学 大学院工学研究科 合成・生物化学専攻	立体n共役骨格の高分子化とその吸着性能評価	1,000
4	川合航右	29	次席研究員	早稲田大学 先進理工学部 気・情報生命工学科	ナノ空間エンジニアリングに基づくレドック スキャバシタ電極の創製	1,000
5	小林文也	30	助教	東京理科大学 理学部第一部 化学科	極性集積構造変換に基づいた協奏的機能創出 と多重制御	1,000
6	信田尚毅	34	助教	横浜国立大学 大学院工学研究科 機能の創生部門	バイオマス由来原料を用いた高分子材料の合成 と分解	1,000
7	鈴木航	31	助教	兵庫県立大学 大学院工学研究科 応用化学専攻	表面構造制御による金ナノクラスターの触媒 反応機構解明	1,000
8	関根良博	36	准教授	熊本大学 大学院先導機構 学院先導機構	動的電子状態に基づく極性金属錯体創出	1,000
9	千歳洋平	30	助教	九州大学 大学院工学研究院 応用化学部門	近赤外領域に高い2光子吸収能を有するTADF 分子の開発	1,000
10	成田秀樹	31	特定助教	京都大学 化学研究所 機能化学研究系ナノスピントロニクス	ハイブリッド超伝導体における新奇界面効果 の開拓	1,000
11	西村涼	29	助教	立教大学 理学部 化学科	光応答性有機分子結晶を用いたダイナミック 応力センサーの開発	1,000
12	檜垣達也	31	助教	京都大学 化学研究所 素科学国際研究センター	次世代磁性材料の開発を指向した多核金属クラスター錯体の合成と物性評価	1,000
13	吉野隼矢	29	助教	東北大学 多元物質科学研究 所 工学部化学バイオ工学科	トップダウン的微粒子化による酸化鉄光触媒 の高性能化	1,000
14	脇坂聖憲	36	助教	東北大学 学際科学フロンティア研究所	金属有機構造体をフレームワークとする3d金属単イオンの量子磁性	1,000

2023 年度（第 4 回）発展研究助成

(3 件、総額 15,000 千円)

(五十音順)

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 (千円)
1	石井あゆみ	42	准教授	帝京科学大学 生命環境学部	光エネルギー超高効率利用に向けたハイブリッド型アップコンバージョン材料の創成	5,000
2	鷹谷絢	46	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	フラストレイテッドリサイクルを起点とする新しい有機反応化学・有機材料化学の開拓	5,000
3	渡邊貴一	36	研究准教授	岡山大学 学術研究院自然科学研究域 応用化学専攻	クリック反応性イオン液体モノマーを基盤とした新規主鎖型高分子イオン液体材料の開発とその応用展開	5,000

2023年度（第36回）国際交流助成

(10件 2,300千円、取り止め1件)

(五十音順)

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名（機関・場所）	研究題目	助成額 (千円)
1	秋山みどり	33	助教	京都大学 大学院工学研究科	第23回国際フッ素化学学会 (2023/07/23-2023/07/28)、ケベック州ケベック[カナダ・東部]	全フッ素化キュバン：新しい電子受容体	250
2	大川采久	27	助教	東北大学 多元物質科学研究所	ICACC2024(2024/01/21-2024/01/26)、フロリダ州ディトナビーチ[アメリカ・東部]	Yb2Si2O7/SiC複合体の自己修復メカニズムおよび高温酸化挙動	250
3	岡田豪	39	准教授	金沢工業大学 工学研究科	第20回固体線量計測国際会議 (SSD20) (2023/09/17-2023/09/22)、ヴィアレッジョ[イタリア]	Bi添加LiCaBO3のRPL特性評価 / Eu添加CaBPO5のRPL特性評価	250
4	許 勝	28	特任助教	東北大学 大学院工学研究科	第15回チタン世界会議 (Ti-2023) (2023/06/10-2023/06/17)、エジンバラ[イギリス]	Ti-Al基形状記憶合金における室温近傍での弾性熱量効果	250
5	谷洋介	36	助教	大阪大学 大学院理学研究科	第15回 機能性n電子系国際会議 (2023/06/17-2023/06/21)、ノースカロライナ州ローリー[アメリカ・東部]	高効率かつ高色純度な室温りん光を溶液中で示す金属フリー有機分子	250
6	陳 君怡	40	特任助教	東京工業大学 科学技術創成研究院・未来産業技術研究所	2023年国際グリーン電気化学技術学術会および台湾電気化学会 (2023/10/26-2023/10/28)、台北[台湾]	Ti-Nb-Ta-Zr-Oナノチューブ可視光応答型光触媒の開発	150
7	長谷川拓哉	33	講師	東北大学 多元物質科学研究所	ISIEM 2023(2023/06/19-2023/06/23)、モンペリエ[フランス]	太陽光波長変換材に資するモリブデン酸ナノ近赤外光発光蛍光体の創成	250
8	引間和浩	32	助教	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科	ICMAT-2023(2023/06/26-2023/06/30)、Suntec Singapore [シンガポール]	アンチペロブスカイト型(Li2TM)SO電極活物質の合成と電気化学特性	150
9	牧之瀬佑旗	34	助教	島根大学 総合理工学部	8th ISHA学会(2023/09/10-2023/09/13)、バリヤドリッド[スペイン]	酸化鉄ナノ粒子の水熱合成と機械学習を用いた単分散化条件の探索	250
10	松本倫実	31	特定研究員	京都大学 大学院工学研究科	マイクロタス2023 (?TAS 2023)(2023/10/15-2023/10/19)、カトヴィツエ[ボーランド]	PDMS製マイクロデバイスを用いた肝スフェロイド周囲の血管新生条件の検証	250

2023 年度（第 34 回）国際シンポジウム助成

(7 件 2,100 千円)

1. 第 24 回レーザ精密微細加工国際シンポジウム

(The 24th International Symposium on Laser Precision Microfabrication (LPM2023))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 一般社団法人レーザ加工学会

開 催 時 期 2023 年 6 月 13 日～6 月 16 日

開 催 場 所 弘前文化センター（弘前市）

規 模 参加者 291 名（国内 132 名、海外 159 名）

目的と成果 本シンポジウムはコロナ禍を経て 4 年ぶりの国内での現地開催となった。これまでの国内開催のうち最も参加人数が多かった。以前にも増して全体に占める海外参加者割合が高い会議となった。いわゆる「コロナ明け」による渡航意欲だけでなく、世界的なレーザ微細加工分野への注目と関係者数の増大が背景にあるのではと推察される。レーザ材料相互作用の基礎科学からレーザ微細加工技術の現状、次世代のレーザ微細加工等、幅広く議論され、レーザ微細加工の科学基盤の向上に寄与することはもとより技術発展のために必要な将来技術も議論され、社会的にも有益な成果を挙げることができたものと確信している。

2. IAMNano2023

(The International Workshop on Advances and In-situ Microscopies of Functional

Nanomaterials and Devices)

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 IAMNano2023 実行委員会

開 催 時 期 2023 年 6 月 28 日～7 月 1 日

開 催 場 所 くにびきメッセ（松江市）

規 模 参加者 236 名（国内 183 名、海外 53 名）

目的と成果 本会議は、最先端の電子顕微鏡法とナノ材料科学に関する国際会議であり、最先端の研究成果について活発な議論・意見交換および電子顕微鏡・ナノ材料分野における若手研究者の人材育成が目的である。36 件の招待講演を通して、最先端の電子顕微鏡法、装置開発、量子・ナノ・生体材料などの幅広い材料科学への応用に関する第一線の講演が展開された。また、76 件のポスター発表を通じて、学生・若手研究者の最新の研究成果が共有されただけでなく、多くの交流が図られた。

3. 京都大学エネルギー理工学研究所 第14回国際シンポジウム

(The 14th International Symposium of Advanced Energy Science)

助成額 300千円

主催団体 京都大学エネルギー理工学研究所

開催時期 2023年9月5日～7日

開催場所 京都大学 宇治キャンパス（宇治市）

規模 参加者 276名（国内 269名、海外 7名）

目的と成果 本国際会議には、太陽光、レーザー、バイオ、原子力、プラズマに関する国内外多くの研究者が参加した。基調講演1件、招待講演10件、ゼロエミッションエネルギー研究拠点の研究課題のポスター発表88件など、関連する学問領域における最新の研究を発表・討議した。エネルギー・環境・資源問題に対する国際社会の要請、ならびにエネルギー研究に関連する多彩な研究者コミュニティからの要望に応え、幅広い基礎学術や応用科学の創出、さらに、研究者ネットワークの拡大に貢献した。今回は、学生によるポスター発表39件も実施し、エネルギー科学における分野横断的・融合的な若手人材の交流と育成に貢献した。

4. 日本化学会東北支部80周年記念国際会議

(International Symposium for the 80th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Polymer Science of Japan)

助成額 300千円

主催団体 公益社団法人日本化学会東北支部

開催時期 2023年9月8日～10日

開催場所 東北大学青葉山キャンパス（仙台市）

規模 参加者 855名（国内 830名、海外 25名）

目的と成果 日本化学会東北支部設立80周年を迎えるにあたり、新材料を含む化学関連分野の第一線で活躍している国内外の研究者をお招きし、東北地域を中心とする研究者・企業人・学生との交流を深めると同時に、大学生や高校生といった未来の研究者に対する成果発表の場や化学の面白さを認識する場を提供することを目的とした。計118件の口頭講演(ハイブリッド形式)と404件のポスター発表により、今後の共同研究につながる研究者間の交流だけでなく、500名を超える大学生と高校生が対面で成果発表を行うことにより、化学への興味を大いに刺激することができた。

5. 第 19 回キラル分光国際会議

(The 19th International Conference on Chiroptical Spectroscopy (CD2023))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 第 19 回キラル分光国際会議実行委員会

開 催 時 期 2023 年 9 月 17 日～21 日

開 催 場 所 広島市文化財団 JMS アステールプラザ（広島市）

規 模 参加者 203 名（国内 140 名、海外 63 名）

目的と成果 本会議を広島市にて開催し、キラル分光に関わる基礎・応用研究の成果発表を通して、医薬、材料科学、分析学などへのさらなる応用展開について議論を行った。チュートリアル講演、基調講演、招待講演を始め、キラルに関する各専門領域の最新の研究動向についての口頭発表やポスター発表が実施された。活発な議論が展開され、研究者間の親睦も深めることができ、世界における今後のキラル分光学の発展に多大な貢献をもたらすものとなった。

6. 第 15 回エコマテリアル国際会議

(15th International Conference on Ecomaterials 2023 (ICEM15))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 エコマテリアルフォーラム

開 催 時 期 2023 年 11 月 26 日～30 日

開 催 場 所 壱岐の島ホール（壱岐市）

規 模 参加者 72 名（国内 53 名、海外 19 名）

目的と成果 エコマテリアルは、Environmental Conscious Materials（環境を意識した材料）から生まれた造語で、「優れた特性・機能を持ちながら、より少ない環境負荷で製造・使用・リサイクルまたは廃棄でき、しかも人に優しい材料（または材料技術）」である。本国際会議は、多様なアプローチからなる研究開発の議論の場である。第 15 回の今回は、最新の研究開発とともに、壱岐市民の方に広くエコマテリアルの重要性を共に考える場として、広く関係各位の参加を得て実施した。

7. 第 13 回プラズマ技術の基礎と応用に関するアジア太平洋国際シンポジウム／第 16 回先進
プラズマ科学と窒化物及びナノ材料への応用に関する国際シンポジウム／第 17 回プラズマ
ナノ科学技術国際会議

(13th Asia-Pasific International Symposium on the Basics and Applications of Plasma
Technolpgy, 16th International Symposium on Advanced Plasma Science and its
Applications for Nitrides and Nanomaterials, 17th Internationa, Conference on
Plasma-Nano Technology & Science(APSPT-13/ ISPlasma2024/ IC-PLANTS2024))

助成額 300 千円

主催団体 公益社団法人 応用物理学会

開催時期 2024 年 3 月 3 日～3 月 7 日

開催場所 名古屋大学（名古屋市）

規模 参加者 395 名（国内 235 名、海外 160 名）

目的と成果 本国際会議は、日本が世界的に分野を牽引している先進プラズマナノ科学お
よびナノ材料・窒化物半導体研究に加え、プラズマバイオ分野や有機化学分野
までも対象分野としており、さらに分野の垣根を越えた世界に類のない異分野
融合国際研究ネットワーク拠点の形成に貢献している。具体的には、笠原次郎
教授（名古屋大）による特別講演、プラズマ科学、窒化物半導体、ナノ材料、
バイオの各分野からの基調講演や招待講演、さらには一般口頭・ポスター講演
により、各分野における最新の研究成果について報告され活発な討論が行われ
た。

2022 年度（第 33 回）国際シンポジウム助成

(過年度助成済 7 件 2,100 千円、2023 年度助成済 2 件 600 千円)

1. 第 10 回太平洋ラジカル化学シンポジウム

(10th Pacific Symposium on Radical Chemistry (PSRC10))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 第 10 回太平洋ラジカル化学シンポジウム

開 催 時 期 2022 年 6 月 5 日～10 日 → **変更 2023 年 6 月 4 日～9 日**

開 催 場 所 京都大学宇治キャンパス 宇治黄檗プラザ（宇治市）

規 模 参加者 186 名（国内 101 名、海外 85 名）

目的と成果 本シンポジウムは、世界の有機ラジカル化学の発展と研究者の相互交流促進を目的として開催された。ラジカル合成反応、ラジカル重合、ラジカル反応のメカニズム解明から、生物学や医学に関わるラジカルまで、幅広い議題が取り上げられた。日本国内を含む 18 か国から産学の化学者が集まり、口頭講演やポスターセッションを通じて最新の研究成果が発表された。対面開催ならではの質疑応答や交流が行われ、有機ラジカル化学の研究の更なる発展と国際的な研究者コミュニティの促進に貢献した。

2. 第 15 回国際有機化学京都会議

(The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 一般社団法人近畿化学協会 第 15 回国際有機化学京都会議組織委員会

開 催 時 期 2022 年 11 月 11 日～17 日 → **変更 2023 年 11 月 20 日～23 日**

開 催 場 所 リーガロイヤルホテル京都（京都市）

規 模 参加者 978 名（国内 848 名、海外 130 名）

目的と成果 本会議では”有機化学の新展開”に関する討議をおこなうことを目的とし、“有機合成手法の革新”、“材料科学のための有機化学”、“生命科学のための有機化学”に関する世界的に著名な研究者の基調講演、招待講演と、一般口頭発表、ポスター発表が行われた。また第 5 回 IKCOC 賞を米国の Stuart L. Schreiber 教授に授与した。本会議には国内外から 1,000 名近くの化学者が参加し、最新の研究成果の発表と活発な討論が行われ、本会議は成功裏に終了した。

2022 年度分のうち、2023 年度内に助成した件数のみを掲載。

2021 年度（第 32 回）国際シンポジウム助成

(過年度助成済 5 件 1,500 千円、2023 年度助成済 2 件 600 千円)

1. 第 21 回絶縁材料の照射効果に関する国際会議

(21th International Conference on Radiation Effects in Insulators (REI-21))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 「第 21 回絶縁材料の照射効果に関する国際会議」組織委員会

開 催 時 期 2021 年 8 月 29 日～9 月 3 日 → **変更** 2023 年 9 月 3 日～8 日

開 催 場 所 九州大学医学部百年講堂（福岡市）

規 模 参加者 187 名（国内 87 名、海外 100 名）

目的と成果 本会議は、放射線と絶縁材料の相互作用に関する基礎研究、ビーム誘起新規ナノ材料創成などの最新成果を発表し、討論するために隔年で開催される国際学会です。新型コロナウイルスの影響により 2 年遅れの開催となりましたが、26 の国・地域から参加があり、15 件の招待講演、42 件の一般講演、150 件のポスター発表が実施され、世界第一線で活躍する研究者が 4 年ぶりに一堂に会して成果・情報を共有する機会となりました。日本では約 30 年ぶりに 2 回目の学会開催でしたが、我が国のイオンビームコミュニティの連携・協働にも貢献する機会となりました。

2. 第 25 回 IBA 国際会議

(25th International Conference on Ion Beam Analysis (IBA2021))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 「IBA2021 国際会議」実行委員会

開 催 時 期 2021 年 10 月 9 日～15 日 → **変更** 2023 年 10 月 7 日～13 日

開 催 場 所 富山国際会議場（富山市）

規 模 参加者 259 名（国内 110 名、海外 149 名）

目的と成果 先端分野において材料の分析・評価技術の役割は大きく、国際競争力の根源にもなっている。イオンビーム分析法(IBA: Ion Beam Analysis)は、高感度、局所分析、化学状態分析、深さ方向分析さらには 3 次元イメージングなど様々な特徴を持つ分析法であり、自然科学から人文科学までの幅広い研究分野で利用されている。IBA 国際会議は半世紀の歴史を持ち、当該分野で最も権威ある国際学会として広く認知されており、イオンビーム分析法に関する技術課題の議論、応用分野の拡大、若手技術者の育成等を目的としている。

2021 年度分のうち、2023 年度内に助成した件数のみを掲載。

2020 年度（第 31 回）国際シンポジウム助成

(過年度助成済 5 件 1,400 千円、2023 年度助成済 1 件 300 千円、中止 2 件)

1. 計算化学の理論と応用 2020

(Theory and Application of Computational Chemistry 2020(TACC2020))

助 成 額 300 千円

主 催 団 体 TACC2020 組織委員会

開 催 時 期 2020 年 9 月 7 日～9 月 12 日 → 変更 2023 年 9 月 4 日～9 日

開 催 場 所 北海道大学（札幌市）

規 模 参加者 361 名（国内 224 名、海外 137 名）

目的と成果 理論化学・計算化学分野で 4 年に 1 度のペースで開催されている本国際会議を日本で初めて開催した。31 の国と地域から当該分野の研究者が一同に介し、化学に関する理論・計算手法の開発とその応用について議論を行った。海外からの参加学生には選考して資金援助を行った。コロナ禍で対面での国際交流の機会が激減していたが、日本で久しぶりに当該分野の本格的な国際会議を開催しプレゼンスを高めた。若手研究者や学生にとっても国外の研究者と交流する貴重な機会となった。会議情報は TACC2023 ウェブサイトにて発信している。

2020 年度分のうち、2023 年度内に助成した件数のみを掲載。

2023 年度（第 31 回）科学技術啓蒙助成

事 業 名 称	おもしろワクワク化学の世界 '23 徳島化学展
助 成 額	2,000 千円
主 催	公益社団法人 日本化学会中国四国支部
共 催	公益財団法人 徳山科学技術振興財団
協 賛	徳島化学工学懇話会
後 援	徳島大学、鳴門教育大学、徳島市教育委員会
大会委員長	楯真一（広島大学 教授、2023 年度日本化学会中国四国支部長）
実行委員長	森賀俊広（徳島大学 教授）
実 行 委 員	徳島大学、鳴門教育大学、大塚化学（株）
開 催 期 間	2023 年 8 月 26 日（土）～8 月 27 日（日） 2 日間
場 所	あわぎんホール 大展示室（徳島市藍場町 2-14）
展示ブース	実験ブース数 14（大学 10、企業 2、高専 1、高校 1）
参加対象者	小中学校の児童生徒およびその保護者

事 業 概 要

子供たちに「化学の面白さ、不思議さを体験し、化学が日常の生活や産業に重要なことを認識してもらう」ことを目的として、中国四国地区で毎年開催しております。本年は松山での 3 年ぶりの対面形式開催成功を引き継ぐかたちで感染対策を行った上での実施となりました。来場者は各出展ブースで学生スタッフから説明を受けた上で実験を行い、化学の不思議さ面白さに触れていました。特に色が変わったり、スライムやカルメラ焼きのように状態が変化する体験は、子供たちのみならず保護者の方にも強い印象を与えたようでした。

徳島化学展の開催は 10 年ぶりということもあり、実行委員はじめブース担当委員も手探りの状況で企画、運営、実施の運びとなりました。アンケート結果を見ると、非常に好評で、来年も実施してもらいたいとの意見を数多く頂きました。

事 業 名 称	少年少女発明クラブ
助 成 額	1 クラブ 50 千円（7 クラブ合計 350 千円）
主 催	（一社）山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共 催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運 営 組 織	各クラブの企画運営委員会
活 動 期 間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日（1 年間）
場 所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
事 業 概 要	少年少女発明クラブは、現在、全国に 214 のクラブがあり、約 11,000 名の子どもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブ（下関市、山口市、

宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町）が活動している。本活動は、子どもたちに地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。